

材料工学スクール夏期セミナー

開催日時：平成18年9月26日（火）10：00～

開催場所：京都大学大学院工学研究科 物理系校舎 313号室

《プログラム》

1. 「材料から見た光ディスクの技術動向」

10：00～10：40

シャープ株式会社 技術本部 基盤技術研究所 高橋 明氏

光ディスクは、材料開発、技術開発、用途展開、規格が折り重なってできています。そこで、現在話題になっているブルーレイディスクをはじめ各種光ディスクの技術比較と、ディスク型メモリの技術予測を予定しています。

2. 「JFE スチールにおける新技術、新商品開発事例」

10：40～11：20

JFE スチール スチール研究所 高木 周作 氏

JFE スチールにおいて、材料工学を駆使して開発された新商品・新技術について紹介、材料工学の有用性および JFE における材料工学教育への期待を述べる。

3. 「結晶工学;結晶成長～デバイス応用に関する材料工学」

11：20～12：00

京セラ中央研究所光電子デバイス開発部副責任者 磯上 峯男氏

(昼食会) 時計台 ラ・トゥール

12：00～13：10

4. 「電子材料への金属学の応用」

13：10～13：50

日鉱金属株式会社 執行役員 大橋 建夫 氏

弊社が生産・開発している各種ターゲット材料においてどのように金属学的知識を応用しているかにつきご紹介したいと考えております。

5. 「航空機用アルミニウム合金の開発とその歴史」

13 : 50～14 : 30

住友軽金属工業株式会社 吉田 英雄 氏

1906年アルミニウムにおいて時効硬化現象が発見され、ジュラルミンが発明されて以来、約100年が経過したが、その代表的な用途として航空機がある。日本では第二次世界大戦前に開発された超々ジュラルミンがあり、今なお、世界の航空機材料の主流を占めている。戦前における超々ジュラルミンの開発の経緯と戦後における航空機用アルミニウム合金の開発の動向、日本での高強度アルミニウム合金の適用状況と今後の課題について講演する。

休憩

14 : 30～14 : 40

6. 「自動車用鋼板の開発と大学で学んだ事」

14 : 40～15 : 20

新日本製鐵株式会社 谷口 裕一氏

自動車用の鋼板(BH鋼板, パーリング鋼板, 高張力鋼板など)の開発についてその開発経緯や大学で学んだ講義との関連を紹介する予定です。

7. 「モノ作りの中の金属学」

15 : 20～16 : 00

三井金属鉱業株式会社 久保田 耕平 氏

これから学ぶ材料工学のどの勉強が企業の中のどの実務に生かされるのかの経験談をお話しくださいます。内容は、「品質管理」「事故解析」「工場管理」「工場経営」「製品設計」について、大学の講義では全く聴くことができない内容です。特に、講演いただく同氏は、個人的に鉄道という材料のユーザー側と非鉄金属産業というメーカー側双方の材料技術者を経験しておられ、それらの逸話も交えてお話しくださいます。